

KCC九州中国クラブ会報第2号（主な内容）

和田一夫顧問レポートから（第2回）
中国の税制について 連載2回
紹興地区レポート「紹興工業区の紹介」
連載「小川ゼミナール」特集 **変貌を遂げる地方都市長春！**
スナップ写真「第2回定例会懇親パーティ」
九州中国クラブ運営アンケート集計結果とお知らせ

上野 光典
篠原三子雄
塩村 繁雄
小川 雄平
各頁に掲載
事務局

和田一夫KCC顧問レポート

上野 光典

KCC会報第1号の時に和田一夫KCC顧問レポート（1）を皆さまに報告させていただきましたので、今回は和田一夫KCC顧問レポート（2）を報告させていただきます。

前回は、和田顧問の「上海国際経営塾」について、報告させていただきましたが、今回は、和田顧問の「中国にかける大きな夢・新たな挑戦」という切り口で和田顧問を御紹介したいと思います。

和田顧問は皆さんもよく知ってあるとおり、3度の失敗があります。しかし、その失敗を乗り越えて、上海での経営塾を去年スタートされたのですが、それは、若い経営者に自分の経験したものを伝えるためです。すなわち、個々の技術的なことも重要ですが、もっと重要なのは「失敗を恐れない勇気をもつこと」です。チャレンジ精神が一番重要なので、この訓練を中国の若い経営者にするために上海に経営塾を開かれたのです。特に日本と違って、中国はスピードが大切です。その大切なスピードを中国人若手経営者に植えつけるために、和田顧問の経験を生かすことでした。

ただ、和田顧問の中国人若手経営者の印象は、日本の経営者より実行力、そのスピードが大変早いことに驚かされたようです。



和田顧問は現在、上海起業家協会との共催で優秀経営者50人を選別し、ビジネススクール方式で若手経営者を教育されています。その中から具体的なビジネスが少しずつ芽を出しているそうです。

その芽を御紹介しますと、日本が中国に進出しているコンビニのローソンに塾生が弁当を全面的に供給しているそうです。日本の衛生技術、食品管理技術を熱心に学び、中国人に合う味覚、値段、安全を満たした弁当を製作し、売上げも当初の5倍を超えている状況です。

今後ローソンの店舗拡大とともに売上げも飛躍的に向上することが予測されます。

この事例以外でも、マンションのウィークリーやマンスリーサービスで事業拡大を続けている塾生もいるそうです。

和田顧問は、塾生が行っているビジネスを日本で株式公開し、資金を集めてさらに事業を拡大するお手伝いを今後の一生の仕事と考えています。若手の企業家を物的・人的な面でバックアップして、事業を拡大させてそれを日本の皆さんにフィードバックすることを目的として、上海で毎日忙しく飛び回っています。

(次回に続く)

第2回定例会議の開催から

九州中国クラブ第2回定例会議は、さる9月20日、福岡山の上ホテルで多数の会員さんのご参加を得て盛大に開催されました。前半3ヶ月の事業報告に続いて、最新の中国情報レポート「発展する地方都市をねらえ」と題してクラブ会員である中国紹興工業区顧問の塩村繁雄さんから報告していただきました。



また講演会「夫、和田一夫を語る」では、NHK朝の連続ドラマ「おしん」のモデルを義母にもつ和田貴美子夫人から、きわめて厳しかった嫁姑の関係や事業の盛衰、加えて夫婦間の機微までも語っていただき参加者全員感動のなかで終了いたしました。



第二部の懇親会は、開会のご挨拶を株式会社リョーユーパン北村社長からお頂戴して始まり、閉会時間まで会員の皆さん相互の懇親を深めることができました。



会議の様子は各ページのなかでスナップ写真を随所ご紹介しています。



懇親パーティーの様

アンケートご回答ありがとうございました。

九州中国クラブ運営アンケート集計結果（ご回答のなかで今後の方向づけに大切な項目についてまとめています）

1、クラブ活動の全般についてご意見を伺いました。

- (1)入会してクラブ活動を通じてのご感想は
入会して良かった 28% まだよく分からない 46% 今後の活動に期待する 26% でした。
- (2)新規会員のご紹介についてのご意見では
機会があれば紹介したいが 87% を占めて大多数のご意見でした。
- (3)会員企業の皆さん相互のビジネス交流を広げることについては、
お互いに役立つ 44% 自社のPRをしてみたい 27% 事務局で枠組みを 19%
合計すると 90% で前向きに推進していく必要があるご意見が大勢でした
- (4)クラブ会費については
適当 84% 高い 16%（希望金額5000円） 安い0% の順番で今後の課題となっています。
- (5)今後のクラブ活動拡大のために必要な重点課題4項目について
研修・勉強会の拡充 33% 日中ビジネスの情報交換 18% 講師招聘の講演会 7%
ビジネス視察旅行 11% 会員相互の親睦交流 9% 新規会員の募集 2%
ビジネス実務相談会 12% その他 8%（上位4項目・順位はつけていません）

2、定例会議開催について

- (1)開催回数・開催日・会場でのご意見は
年4回開催が 96% 平日夕刻に開催が 85% 福岡市周辺 77% で集約されていました。
- (2)また懇親会開催の意義と内容については
有意義である 75% 少し役立つ 18% 会食内容は現行でよい 69% が大勢を占めています。
- (3)また研修・勉強・講演会の開催方法としては
定例会議との併催 81% 別途に開催すべき 16% のご意見が殆どでした。
- (4)さらに開催内容のテーマを考えるご意見では
日中ビジネス実務 51% 経営事務（法制面含む）33%の結果で、さらに講師には会員企業
さんを要望が 48% あって、これからの開催に具体的な検討が必要になりました。
- (5)活動方針とは別個の問題でしたが忘年会の開催について伺いました。
開催すべき 37% 出席してみたい 44% 企画次第で 16% の結果で、実施を準備します。

参考にごった和田貴美子講演と塩村中国レポートは何れも面白かった・役立ったのご意見が圧倒的で、
事実に基づく体験や報告が皆さんのご理解を得たものだと考えています。

3、クラブ会報の発行について

- (1)発行回数、内容、ご要望の記事は
回数では現行のまま 75% 内容では更に充実を 40% 記事では中国の新鮮情報 68%でした。
- (2)会員企業さんのPRページの掲載については
前向きに検討 63% 掲載希望 26%でした。早速第2号に募集案内を掲出いたしました。

4、中国へのビジネス視察については

- 会員の皆さんほぼ全員が中国渡航のご経験があり、ビジネスのなかで現地視察がきわめて重要な
方法手段をご認識されているようです。これからクラブが立案の参考にさせていただきます。
- (1)会員の皆さんの過去の訪問回数は 1～2回 26% 3回以上 55% 合計81%の結果でした。
 - (2)希望目的は 観光中心 29% 企業・工業区・市場など 14% 観光とビジネスが 42% でした。
 - (3)参加費用のご希望 10～15万円 51% 10万円未満 30% が中心になっています。
 - (4)実施時期については 特にない 66% が多数で、10～12月 18% が続いています。

業務ご多忙のなか、ご丁寧にご回答賜りありがとうございました。伺ったご意見がクラブ活動や運営に
反映されるように役員、事務局一同さらに努力してまいります。

連載：中国税制について 第2回

篠原 三子雄

今回はまず中国税制の概略を見ていきます。

	税目	対象、特徴	税率、申告
所得税	外国企業所得税	<ul style="list-style-type: none"> 外資企業の(全世界)所得が課税対象 非居住者外国企業の源泉徴収を規定 優遇税制を規定 二重課税回避は外国税額控除方式 	<ul style="list-style-type: none"> 33% 年度申告 源泉納付は翌月5日
	個人所得税	<ul style="list-style-type: none"> 所得種類ごとに税率、申告期限を規定 給与所得は月次確定申告 (基礎控除以外の所得控除なし) 	<ul style="list-style-type: none"> 5~45% 毎翌月7日まで
	企業所得税	<ul style="list-style-type: none"> 中国国内企業の(全世界)所得が課税対象 	<ul style="list-style-type: none"> 33% 年度申告
流通税	増値税	<ul style="list-style-type: none"> 付加価値税に相当 物品販売,加工業務が課税対象取引 輸出免税,還付制度あり 仕入れ税額が売上税額を超える場合は繰越 	<ul style="list-style-type: none"> 13%、17% 毎翌月10日まで
	営業税	<ul style="list-style-type: none"> 各取引段階で課税(仕入控除,相殺は不可) 役務提供,無形資産,不動産の譲渡・貸与,建築 輸出等の取引が課税対象 輸出免税制度なし 	<ul style="list-style-type: none"> 3%、5% (娯楽除く) 毎翌月10日まで
	消費税	<ul style="list-style-type: none"> 種類、タバコ、乗用車、ガソリン等の奢侈品 生産者,輸入者に課税(蔵出し時) 	<ul style="list-style-type: none"> 3%~45%(従価税) 従量税を併用 毎翌月10日まで
	関税	<ul style="list-style-type: none"> 課税対象物品の輸出入が課税対象 (輸入増値税も一括徴収) 	<ul style="list-style-type: none"> 0%~270% 通関時に納税
資源税	資源税	<ul style="list-style-type: none"> 原油天然ガス等の開発,生産が課税対象 	<ul style="list-style-type: none"> 従量税 毎翌月10日まで
	土地使用税	<ul style="list-style-type: none"> 課税対象地域での土地使用が課税対象 中国国内企業が対象(外資企業には土地使用費) 	<ul style="list-style-type: none"> 0.2~10元/m²
財産税	都市不動産税	<ul style="list-style-type: none"> 課税対象地域内家屋の所有,貸与が課税対象 	<ul style="list-style-type: none"> 所有 1.2% 貸与 12%
	車両船舶使用鑑札税	<ul style="list-style-type: none"> 車両、船舶の所有が課税対象 	<ul style="list-style-type: none"> 従量税
行為税	印花税	<ul style="list-style-type: none"> 課税文書(契約書)、認可証,会計帳簿が貼付対象 中国国内資産(出資持分を含む)関連契約は国外で実行されても適用 	<ul style="list-style-type: none"> 0.003%~0.1% 印紙購入時課税
	契税	<ul style="list-style-type: none"> 土地使用権,建物の売買,贈与,交換等が対象 (納税者は譲受人) 	<ul style="list-style-type: none"> 3%~5% 契約後10日まで
特定目的税	土地増値税	<ul style="list-style-type: none"> 国有土地使用権、建物の・付属設備の譲渡 (納税者は譲渡人) 	<ul style="list-style-type: none"> 30%~60% 契約後7日まで
	固定資産投資方向調整税	<ul style="list-style-type: none"> 中国国内での固定資産投資が対象 中国国内企業のみを対象 	<ul style="list-style-type: none"> 0%~30%
	都市維持建設税	<ul style="list-style-type: none"> 納付流通税(増値税,営業税,消費税)が対象 	<ul style="list-style-type: none"> 1%~7%

これら以外にも 屠殺税(特定の家畜の購入または解体処理に課税)、
 宴席税(日本の特別地方消費税に該当)
 車両購入税(車、オートバイ等の購入に課税)
 耕地占用税(農業用地を使用して建物を建てる場合に課税)
 農業特産税(特定農産品の生産者に対して課税)などがあります。

雑学知識 その2

上海で発行される発票（ファーマオ：給領収書）には日本のマクドナルドなどでよく見られる削り出しが付加されています。これを削り『あたり』ができれば幾許かの現金を手にすることができます。中国の税制実務では領収書主義が採用されていますので、消費者が積極的に発票を請求するように、つまり発行者は発票分は確実に税務申告する必要があるわけです。

納税意識を高める？ひとつの方法です。

中国税制について“中国と日本の主たる税制の概要比較”

税目	中国	日本
①法人企業所得税	(外資) 企業所得税	法人税
課税所得計算方法	基本的に同じ (交際費限度額計算、移転価格税制)	基本的に同じ
引当金	原則全額否認(損金不算入)	損金限度額(貸倒引当金等)
寄付金	全額否認(損金不算入)	限度額
国外配当	外国投資家宛配当の源泉徴収免除	5%~20%
外税控除(限度額)	国別限度額方式	バスケット方式
税務申告	監査報告書添付義務あり	監査報告書添付義務なし
予定納税	年3回	年1回
②個人所得税	個人所得税	所得税
申告・納付	月次(給与所得、源泉徴収あり) 年次(事業所得、月次は予定納税)	年次(月次は源泉徴収)
非居住者の課税計算	税額按分	所得按分
③付加価値税	増値税	消費税
対象取引	物品販売取引	全取引(区分なし)
固定資産購入	仕入控除不可、取得原価算入	仕入控除可能
社内取引	原則課税対象(同一税務局管轄地域外)	非課税
管理方式	伝票方式	帳簿方式
確定申告	月次	年次
輸出免税規定	ゼロ税率(免税) 実是一部不還付	あり
④付加価値税	営業税	消費税
対象取引	役務提供,無形資産取引,立替金(価格外費用)	全取引
確定申告	月次	年次
輸出免税規定	なし	あり
⑤物品税	消費税(歳出税)	—
課税対象	奢侈品	—
⑥印紙税	印花税	印紙税
貼付対象書類	契約書,登記簿,認可証,会計帳簿	契約書等
⑦税務調査・罰則	(税収徴収管理法)	(国税通則法)
対象期間	最高5年(脱税仮装隠蔽は無期限)	最高7年
延滞金税率	年率18.25%	年率4.1%(原則7.3%14.6%)
帳簿保存期間	15年	7年
加算税率	最高50%~500%	最高40%

次回は—その5— 中国の税務組織

—その6— 個人所得税の概要を案内します

水郷、名士の街“紹興”

紹興工業区招商顧問 塩村繁雄

【1】. 紹興の概要

私が紹興を初めて訪れたのは今から12年前の1993年（平成5年）の秋であった。当時はもとより今でも日本人には中国の紹興と言っても馴染みの無い所かも知れない。しかし紹興酒の紹興と言えば中華料理にもでてくる為、多少聞いたことがあると言われるかもしれない。この紹興について今回、紹介させて頂く機会を得ましたので私の5年間の仕事と今尚生活をしている中から最新のありのままをレポートしてみました。

紹興市は浙江省のほぼ中心にあり上海から車、汽車で約2時間半の東南地区にあり、人口450万人の地方都市である(写真左)。人口だけ聞くと驚くけれども存知のごとく中国では市が日本の都道府県に相当し、13億以上とも言われる世界最大の人口国であることから地方都市でも日本に比べると予想以上に大きいのが一般的である。従って紹興市もその下に3つの小市(上虞市、諸既市、嵊州市)と二つの県(紹興県、新昌県)を包括している。



遡れば紹興は南宋時代に越の国として栄えた歴史的にも古い街である。市内の1/3が運河を有する水郷の地でもあり、蘇州と並んで東洋のベニスと言われるくらい豊富な水に恵まれたところでもある。この恵まれた自然環境が紹興酒と産業の発展をもたらしたとも言われている。

日本からこの紹興を訪れるには二つのル

ートがある。一つは従来から開港している日本の各都市から上海浦東国際空港経由して入るルートと昨年開港した大阪、東京とを結ぶ浙江省の省都（杭州）の杭州蕭山国際空港を経由して入るルートである。当然福岡の場合は近い上海を利用の方が便利である。急ぐ場合は1泊2日の国内並みの時間で十分所要を済ませることが出来る。



【2】. 経済と産業

紹興に限らず近年中国の経済発展は目覚ましいものがあり今や世界の物造りの拠点でもあり、消費国でもある。この紹興の地は昔から繊維産業が盛んであり、今は近代的な化学会社、合成繊維会社、また加工縫製工場に至るまで一環体制として栄えている。特に紹興県の軽紡城は世界最大ともいえる繊維生地市場として国内外からの全ての生地取引の中心となっており世界各国から訪れる人も多い。また市街地区の嵊州市にはネクタイ市場もあり日本のネクタイの70%、中国国内の95%がこの地で生産されている。

しかしこのように目覚ましい発展を続ける中でさまざまな問題や歪が発生した。かかる状況下、紹興は中央政府との繋がりが強いこともあり他の地方都市に比べていち早く問題改善に取り組んでいる。主な内容として①. 1998年から河川の汚染対策を進め、排水処理と併せて河川の整備を行い、市民の全員参加の寄付も含め三年間で紹興市内の主な河川の改造を行い見事な河川と公園が出来上がった。今では市民の最大の憩いの場となっている。②. 次に住宅、商店の整備を進め市内にある企業は開発区

や工業区へ移転を行いその空き地は公園として整備している。③. 更に発展を続ける産業支援として上海と寧波を結ぶ高速道路の紹興インターチェンジから市内に入るまでの地域に企業の為の工業区を設けた。面積が87平方キロメートルという袍江工業区には膨大な敷地に発電所、給排水処理設備等も設けられ、いろいろな優遇処置も施され既に数多くの国内外の企業が開業している。



【4】. 恵まれた観光地

“水郷、名士、お酒のふるさと”と言われているが狭い市内に数多くの観光地が集中していることは魅力の一つである。移動時間が少なく歩いてゆっくり観光だけでなく、昔ながらの三輪車に乗って周囲の風情を楽しむ事も出来る。又水郷地独特の市内あらゆる所まで運河が入り組んでおり、街中でも足で漕ぐ烏篷舟に乗って観光することも出来る。

下記に代表的な観光地を紹介するも、私ごときの素人の文章ではうまく表現できない部分が多く是非機会を作って自分の目で散策してもらえれば幸いである。

1. 山水景勝地

紹興の市内周辺には昔の採石跡の風景地が4ヶ所(柯岩、吼山、東湖、羊山)ある。いずれも三国時代の西暦200~300年頃から採石を開始したと言われているが、採石に携わった当時の職人が形が途切れなように採石して洞窟や石壁や奇怪なものが残っている。私も何度となく訪れたが機械も設備も無い昔、どのようにして採石し

たのであろうかとスケールの大きい景勝地を見てただ驚くばかりである。この採石した石は紹興市内のあちらこちらの運河をまたぐ橋や行きかう道路に使われており、市内には大小合わせて約1万の石橋があると言われている。この橋を見て回るだけでも面白い。



2. 名所古跡

市内並びに市内の近くに約10箇所、数千年前のものから4,5百年前のものまで多種多様な名所古跡がある。到底全部紹介することは難しいのでその中から日本に関係のある所や全国的にも珍しい箇所を2,3紹介させて頂く。最初は約1500年前、紹興の洪水対策を携わった治水の名人、夏禹を祭った禹陵の墓である。会稽山の麓に建てられたこの禹陵は本殿の屋根に書かれた4文字で近年有名になった。“地平天成”と書かれたこの文字から約17年前、今は無き小淵総理大臣が官房長官の際にこの地を訪れた時、この中の二文字を採り“平成”という年号を制定したとも言われている。次に中国といえば書(習字)で有名であるが書の大家“王羲之”が蘭亭集序を書いたことから書の聖地としてたたえられている欄亭というところがある。毎年3月に行われる蘭亭祭には世界の書道界の代表が集まって書が披露されるが中国の書の大家の前で書くのは手が震えるといわれている。この地で買った書の道具は書道を学んでいる人には願っても無い土産になる。最後に私が最も進めるのは約2500年前(越国時代)の貴重な文化財となっている印山越国王陵である。市内から15分くらいの茶畑

の栽培されている辺りが緑一色の静かな所にある。小高い丘の下から10年前(1995年)に発掘されたものである。2500年もの間、安置された木棺の上の巨木を腐敗させないように炭粉で覆った知恵には感服する。一見の価値がある。



3. 名士の故郷

紹興には歴史上多くの著名人が誕生しており、代表的な①. 文学家、思想家でもある魯迅、②. 中国の女性の地位を高めた革命家の秋瑾、③. 中国第一代の首相、周恩来、④. 中国4大美人の一人西施、等その関連の記念館や故居がある。特に市内の中心にある魯迅故居を訪れる人は多く、周囲の建築物は昔ながらの風情を感じさせる。

【5】. 最後に

何処の国の観光をする時も同じであるが観光地だけ見たのではその国や地域の様子や状況を理解できないことが多い。従って紹興を訪れた時は是非、庶民の生活場所、商店街、公園を散策して欲しい。



またできればスーパー、百貨店で生活用品を見て日本との対比や紹興酒を味わいながら紹興の名物料理(本場の中華料理)

を味わって欲しい。宿泊ホテルは何処も日本に比べて豪華で広ばかりでなく価格も安く、日本の国内旅行よりも安価で手軽に満喫できるのも中国の魅力の一つである。

(終)

第二回定例会スナップ写真から



歓談のなかにも熱がこもる呉社長



講演会で熱心に質問される大塚社長



報告事項を検討する出席者の皆さん

8月15日から9月30日まで、途中5日間は大学院入試で一時帰国したが、40日余り中国に滞在した。1ヶ月以上の滞在は10年振りである。今回はその時の見聞を記すことにしたい。吉林大学東北亜研究院で院生向けに「東アジア経済論」を講義するのが今回の訪中の主目的であるから、新学期が始まった9月以降は吉林大学の交流会館に滞在したが、国境貿易の調査のために、中国最大の国境都市である遼寧省丹東市や吉林省の国境の図們市・琿春市にも出かけたので、これら地域の現況にも触れておきたい。



小川教授の講演

・変貌遂げる地方都市

吉林大学のある長春市は吉林省の省都である。年配者には、「満州国」の「新京」だといった方が分かりが早い。都市計画を基に創られたこともあって、緑地帯のある幅の広い道路がロータリーで交差し、東西南北に真直ぐに伸びている。旧官庁街の日本建築もそのまま保存されており、以前から、緑の多い美しい街だと評判であったが、その緑も、高層ビルの陰に隠れてしまったようだ。国際貿易ビル14階の回転レストラン（10年前と変わらずバイキング方式の火鍋をやっていて感激したが、料金は10元上がって50元になっていた）から見渡す長春の街は、高層ビルで埋め尽くされている。「長春」の地名は、厳しく長い冬が明けると春は束の間で直ぐに夏になるという当地の気候から、長い春を願って名付けられたという。

人口当たりの学生数とタクシー台数が多いことでは夙に有名だが、学生数の方は、市内の5大学を併合して6万人を擁し、全国最大規模を誇る吉林大学の存在が大きい。タクシー台数の方は、道路が広いこと、それに中国最大の自動車製造会社「第一汽車」の工場があることも無関係ではない。分離帯を挟んで左右に2～3車線の車道、さらに緑地帯があり、その外側に1～2車線の車道と歩道があるという広い道路も、最近では車が轟くようになった。自家用車が増えたからである。吉林大学の私の知り合い10数人を見ても、既に4人が自家用車を持っている。

このように車が増えると、赤信号でも車の右折は可能という中国の交通規則に慣れない日本人は緊張を強いられ、広い道路の横断は、それだけで疲れてしまう。しかし、中国人は平気の平左である。少し行けば横断歩道があるのと思うのだが、左右からの車を避けながら道路の途中で横断している。見ていて、「あっ、そうか」と思った。横断歩道には

信号があるが、日本と違って、左右からの車が全て止まってくれるわけではない。交差点だから、右折してくる左右からの車にも注意が必要なのに対して、道路の途中での横断は、直進してくる左右からの車に注意していればよい。それも「みんなで渡れば怖くない」のだ。赤信号でも右折可能という交通法規が、皮肉にも信号無視の横断を生み出しているというわけである。

こうした街の発展に空港が付いて行けなくなったからか、8月下旬に長春空港は郊外に移転した。規模は大きくなったのだが、高速を使って1時間も掛かる。以前と比べると所要時間は2倍になった。第一汽車とトヨタとの合弁が決まったこともあって、9月16日から長春―名古屋便が水・金曜に就航するようになった。8月15日の大連―長春便の大幅遅れ（長春到着は翌16日の午前2時になった）で、酷い目に遭った経験から、一時帰国後の長春入りは名古屋からの第1便を利用した。それも南方航空のミスでビジネスクラスに乗れるという“おまけ”まで付いた。

私の住む「友誼会館」は大学のキャンパスの直ぐ近くにある。この辺りは元々は農地だったが、吉林大学の移転で新たに開けたところである。高層住宅や商店が立ち並び、米国の小売業ウォールマートやケンタッキー・フライドチキンも店舗を構えている。ウォールマートの前は客待ちのタクシーが長い列を作っている。一際大きく目に付くのは、オリエンタル・ホームという家具や内装用品や建材を売る店である。中国では一般に、住宅の内装は購入者が行なうので、大学の移転で次々に住宅が建設されているこの辺りは、家具や内装用品の需要も多いのである。

・中国製品と中国式服務

私の住まい「友誼会館」は大学の交流施設である。しかし、大学は任命した個人に任せて干渉しないので、経営にはその個人の意向が大きく反映されることになる。1・2階は事務室や会議室や食堂、7階以上は留学生の宿舎であるが、3～6階はホテルにし、部外者を泊めて稼いでいる。私には寝室と応接室が付いた3階の広い部屋が割り当てられた。直接外線と繋がった電話と小型の冷蔵庫も付いている。バスタブは足を十分に伸ばせるほどに大きい。

実は、大学が最初に用意してしてくれたのは、元の医科大の招待所であった。街の中心部に近く、部屋も3部屋あって広くて良いだろうと考えてくれたのである。飛行機が遅れて、部屋に着いたのは夜中の2時を過ぎていたのだが、服務員は笑顔で出迎えてくれた。気を良くして、シャワーを浴びようとしたのだがお湯が出ない。翌日、給湯時間が決まっているのかと聞いてみると、ボイラーが壊れているのでお湯が出ないのだという。どうしたものかと思いながら改めて部屋を見てみると、通りに面した窓のサッシの留め金が壊れているではないか。早速大学の外事処に連絡して別の宿所に引っ越すことにした。

新しい宿所が「友誼会館」というわけである。こちらはずっと新しい。先に紹介したように設備も整っており、招待所とは月とスッポンだと思ったのだが・・・そうでもなかった。バスタブは広いのだがお湯が溜められない。シャワーとの切り替え式になっていて、シャワーは出るのだが、スイッチを切り替えてお湯を溜めようとする途端にお湯の出が悪くなってしまふ。折角の新しい設備だが全く役に立たない。それだけではなかった。窓のサッシである。ここでも招待所と同じく留め金が壊れている。利用者が乱暴で壊れたということでもなさそうである。外見は問題がなさそうだが、おそらく品質に問題があるのであろう。そういえば、大学の研究所もトイレの便器の一つが壊れて使用禁止になっていたし、「友誼会館」前の道路のマンホールも蓋が壊れていた。日本製品ならJIS規格があり、品質管理も行き届いているので、通常の使用で壊れるなんて考えられない。

かつて日本の商社が、中国の国有企業に、カシミヤ20%入りのセーターを発注したところ、右腕部だけカシミヤ、他は羊毛のセーターを納品してきたのでクレームをつけたら、

全体の20%はカシミアだから問題ないではないかと反論されたという。さすがに今日ではそんなことは無くなった。少なくとも衣料品については、日本企業が技術指導をし、事細かに注文をつけ、厳しく検品するので、日本に輸入されてくるものは全く問題がない。しかし、中国内で販売されている工業製品については、品質に問題のあるものが少なくない。それでも欠陥品がまかり通っているのは、「幾つかに一つの欠陥品があるのは仕方がないので、工業製品とはそうしたものなのだ」という共通認識があるからであろう。しかも自分のものではない。不特定多数が利用する窓のサッシの留め金やトイレの便器やマンホールの蓋である。壊れていても気にも留めないであろう。

ところが、である。そんな中国も徐々に変わりつつあるようだ。私の友人達は、TOTOのウォッシュレットを備え付け始めたし、一部のホテルでもTOTOの製品を設置するようになった。高くても品質の良い工業製品が求められるようになって来たのであろう。衛生陶器だけではない。テレビや冷蔵庫の市場は、未だに康佳・長紅・海信・海尔といった国産メーカーが席卷しているが、液晶テレビや大型冷蔵庫が普及するようになれば、日本の電機メーカーが一気にシェアを拡大することになるだろう。高価なミネラルウォーターが普及するようになって、人々の安全性や品質への拘りも著しく高まっているからである。

他方で、何時まで経っても改善されないものもある。それはサービス（中国語では「服務」）である。私の部屋にも毎朝、スタッフが掃除にやってくるのだが、屑籠の塵を捨て、掛け布団の位置を正し、バスタオルを畳み、トイレットペーパーの端を折るだけだから5分とかからない。「掛け布団の位置はどうでも良いから床に掃除機をかけてよ」、「トイレットペーパーの端は折らなくても良いから便器の掃除をしてよ」と言いたくなる。困ったのは、帰国の1週間位前から突然に電話が通じなくなったことである。修理を頼んだら、碌に調べもしないで、悪いのは外線だから電信局に連絡するという。スタッフも、直るまで自分達の詰め所の電話を貸してやるから使えと、横柄だ。他所から私に掛かって来る電話はどうするのだと言ったら、黙ってしまった。帰国するまで電話が直らなかったことはいうまでもない。

延吉で泊まったホテルも、老舗の貴賓棟だったからか、用を足しながら電話が掛けられる中国製のウォッシュレットを設置していた（もっとも、電話機は壊れて通じなかった）が、スタッフのサービスは友誼会館同様に最低だった。20年も前になるが、長白山に登った時に泊まった麓のホテルを思い出す。部屋には当時珍しいカラーテレビが備え付けてあったのだが、洗面所もトイレも室内はおろか建物内にもなく、外に出なければならなかった。目に見える高価なものを備えるのがサービスだと考える風潮に未だ変化の兆しは無いようである。

帰国便も長春一名古屋便を利用したのだが、8時半の出発が6時間も遅れて午後2時半になった。しかし、何故遅れるのか説明がない上に、お詫びの言葉も皆無であった。最初から最後まで、中国式サービスに崇られてしまった。

・ 贅沢な住宅事情

地方都市長春の住宅事情を見ておこう。ちなみに、大学付近の高級マンションの価格は1㎡当たり3,000元である。広さは、占有床面積150㎡くらいであるから、1戸で45万円（600万円強）である。これに、5～10万円ほど掛けて内装をするから、50～60万円になる。二人の給料を併せて5,000～6,000元として、ほぼ10年分に相当する価格である。銀行ローンを利用するにしても、容易に手が出る価格ではない。床面積を狭くして価格を下げたら直ぐ売れるだろうと思うのだが、次々に高級マンションが建設されているのを見ると、高くても買う人はいるのである。「中国通の小川先生にも理解できないでしょうが、我々の収入は給料だけではないんですよ」と言った友人の言葉を思い出して、妙に納得してしまった。

日本でも、年収の10年分以上もするマンションは超高級であろうが、それでも床面積は150㎡もないであろう。しかし、日本人と違って中国人は広さに拘る。大学の住宅も、教授は広く、講師は狭い。講師から副教授へ、副教授から教授へ、さらに博士指導教授や管理職へと昇進する度に、以前よりも広い住宅が支給される。地位によって歴然とした格差が付くのは給料だけではない。

大学付近の住宅群

それも大学だけではなく、政府機関や国有企業も同じである。中国では、住宅の広さは地位と権力の象徴でもあるのである。

私の友人達は皆、副学長や学部長や博士指導教授になっているので、大学から130~150㎡の住宅をタダ同然の価格で支給してもらい、内装や家具に金を掛けている。招待されて彼らの住宅に行くと度肝を抜かれる。建物の外見は薄汚いコンクリートが剥き出しになっているし、共用の階段には裸電球がぶら下がっているだけだから尚更である。ドアを開けるや、中は別世界である。床は寄木のフローリングで、総木製の高級家具がずっしりと置かれている。凝ったシャンデリアが煌き、電気製品も高級品を揃えている。そうした住環境にありながら、別にもう1棟高級マンションを買おうとか、老後に備えて300㎡の別荘を買おうか等と話しているのである。後で見るように、中国人は食物に贅沢だが、「兔小屋」に住んでいると揶揄される日本人から見ると、住居に関してもきわめて贅沢である。



・ウォルマート (WAL-MART)

買い物には、世界最大のチェーンストアであるウォールマートをよく利用した。中国語では「沃尔玛」である。朝日の缶ビールを5元(70円)で売っていて、17元の干白(白ワイン)ともども愛飲した。中国のビールのアルコール度数は3.5度で日本のビール(5~5.5度)より低く、味も淡白でコクがなく不味い。ワインはドイツやフランスとの合弁で安くて美味しいものが出回るようになった。酒の肴はハムや豚の耳やナッツの類である。クリームチーズも美味しい。昔は不味かったパンが驚くほどに美味しくなり、種類も増えた。

長春市内に出現したアメリカ・ウォールマートの店頭風景



ウォールマートでは、電気製品から衣料品、食肉・野菜・加工食品から紙コップ、化粧品まで売られている。食品には、製造日に加えて、原材料名が明記してある。防腐剤や人工色素等の添加物は使用していないと明記している食品も少なくない。人々の安全意識も

高く、ミネラルウォーターが良く売れている。私の友人達も、自宅でも大学でも、ミネラルウォーターの大きな容器を据え付けて飲用水に使っている。

目に付くのは広い果物売り場で、米国産のレモンやリンゴやブドウ、ニュージーランド産のキウイ、イスラエルや南アフリカ産のオレンジ等の輸入品も売られている。客は備え付けのビニール袋に好きなだけ果物を入れ、計量係りに量ってもらって、量目と価格のプリントされたラベルを貼ってもらう。価格は1斤(500g) 3.2元(40円)と格安のバナナを除けば、一般に10~17元で、国産の果物(2~5元)よりずっと高い。ドリアンやマンゴスティン(1斤16.4元)といった珍しい南国の果物も売られているが、これらはタイとの自由貿易協定の前倒し措置で、無関税輸入されたものであろう。生果で売られている。南方から遙々運ばれて来た割には鮮度も良好である。流通の急発展を認めないわけには行かない。ウォールマートで品定めしている人々を見ていると、中国人の消費水準の向上が実感できるというものである。

・大皿料理

9月18日は旧暦の8月15日、中秋節である。中秋節は家族が集まり、月餅に代表されるように丸いものを食べるのが慣わしだが、外食する人も多く、この日ばかりは付近のレストランは何処も家族連れで満員の盛況であった。

中国は、食物に関してはきわめて贅沢である。注文すると、大皿に山盛りの料理が出てくるので当然食べ残しが沢山出る。品数は多ければ多いほど良いと考えられているので、尚更である。最近でこそ、家族連れは「打包」といって、食べ残しを折り詰めにして持ち帰るようになったが、接待や宴席では「打包」はしないから、残飯は豚の餌か廃棄処分である。中国では食事が持て成しであるから、昼も夜も宴会だらけである。途方もない資源の浪費である。

料理を大皿と小皿に分けるだけでも随分と無駄は省けると思うのだが・・・、そうしても小皿を注文する客はほとんどいないというのである。日本人はケチだと一笑に付されてしまった。8月のKCCの講演会で金鳳徳教授は中国を「資源消費大国」だと紹介したが、正確には「資源浪費大国」というべきであろう。

さて、実際問題として、一人で食事するとすると、料理が大皿では困ってしまう。値段が安いので何種類注文しても懐は痛まないのだが、食べ切れないことが分かっているので、貧乏性の日本人が注文するのは1皿か、せいぜい2皿である。それでも食べ残して、何となく後ろめたい気持ちになる。そんななかで見つけたのが、新装開店したホテルの自助餐(バイキング料理)である。これなら、好きな料理を少しずつ何種類も楽しむことが出来る。おまけにビールが飲み放題で、料金は38元(500円弱)である。驚いたことに、炙り肉の塊を客席まで持ってきて、好きなだけ切り分けてくれるサービスまである。嬉しくなって、一人で食事をする時には、ここを利用することにした。

・中国式“商い”

ある日の昼食時である。いつものようにホテルのレストランに行くと客の姿が全くない。前日の賑わいが嘘のようなものである。後から来た客も料理の中味を確認して店員と話しをすると、皆帰ってしまう。炙り肉のサービスがないのは客がいないからかと思いつつ、いつものようにビールを1本飲んで食事を済ませ、勘定をして驚いた。23元(300円強)だというのである。昼食時は炙り肉のサービスをしない代わりに料金は38元から20元に引き下げ、ビールは飲み放題ではなく1本3元とし、合計23元に価格改定しというわけである。安くなったのに、翌日の昼は私の他に1組、翌々日の昼も私の他に2組と、客の入りは散々であった。

個人的には値段が安くなって有難いのだが、一般の中国人の反応は違うようである。私

のように一人で来る客は皆無で、家族連れや仲間に来るから、料金は少々高くても、炙り肉のサービスがあり、ビールやジュースが飲み放題の方が、テーブルが豪勢になって良いのであろう。家庭の食事は慎ましくとも、否、慎ましいからこそ、外食はある程度豪華でないとい我慢できないのである。後から来た客が皆帰ってしまったのも、店員から、値段は下がったが、炙り肉のサービスも無くなったことを知らされたからであろう。

ホテル側は、料金を下げないと競争に勝てないと判断して料金を下げたのだが、ホテル独自の特色あるサービスまで止めてしまったので、客が離れてしまったのである。ホテルに食事に来る客がどのような客であるのかを考慮せず、兎に角多くの客に来て欲しいと思い、付近の、生ビール1杯2元・羊肉串焼き1本0.5元で、10元もあればお釣りが来る、学生相手の焼肉屋と価格競争したというわけである。その結果、折角付いていた消費水準の高い客は離れてしまい、かといって学生が気軽に来られるほどには安くないという、どっち付かずの価格設定になってしまったのである。

中国では、往々にして、こうした近視眼的なやり方で事業に失敗する。投資資金は早く回収したいという気持ちが強く、上手く行かないと思えば直ぐに撤収して別の事業に投資する。失敗したという意識は薄く、したがって失敗から謙虚に学ぼうとはしないようだ。長期戦略で行動する日本の事業家とは随分違う。こうした違いが日中の合弁を難しくしているようである。

・様変わりした大学生

中国は日本と違って9月が新学期である。吉林大学はナンバースクールであるから、成績が優秀でなければ入学できない。加えて近年は、親が高所得でなければ入学できなくなった。費用が高いからである。学費は学部によって異なるが、文系で年間6000元である。学生は全寮制だから、これに寮費1200元、食費等7000元、その他の費用を加えると1万5000元(20万円強)となる。現金収入の少ない農民にとっては到底負担できない高額である。したがって、合格しても入学を断念する学生も少なくないし、なかには学費が工面できなくて自殺する学生もいるという。

10年前までは、大学の学費はタダであった。大学院生には生活費が支給されていた。したがって、農民の子弟であっても、優秀であれば大学に進学でき、大学院で学ぶこともできた。私の友人達はその殆どが貧しい農村の優等生である。親・兄弟が文盲だという人もいる。しかし、いまは違う。学費が高いので、貧しい農村からは進学できなくなっている。大学院生は公費が47%、私費が53%と決められていて、成績が良ければ公費負担(学費免除)だが、先ず大学に進学できなければ大学院には進めない。



吉林大学構内、新入生歓迎の垂れ幕

私の講義に参加した大学院生11人と食事をして親の職業を聞いてみたが、地方政府の幹部職員、教員、企業経営者ばかりで、農民は一人もいなかった。大学の学費だけではない。有名大学に入るためには有名高校・有名中学に入らなければならない。その費用は大学以上だといわれている。私の友人は、東北師範大学の附属中学に子供を入れるのに、学費以外に3万元使ったと言っていたが、「一人っ子」に掛ける教育費は膨大である。言い換えれば、所得が低ければ、大学教育や大学院教育は受けられず、したがって高収入の職にも就けないということである。中国社会も終に階層社会となってしまったようである。

親に膨大な教育費を掛けてもらい、晴れて吉林大学に入学できた学生はどんな顔をしているのであろうか。8月末のある朝のことである。いつものように会館1階の食堂で食事

をしていたら、一人でボケーっと座っている学生が目についた。朝食は自助餐（バイキング料理）だから、数種類のおかずを皿に取り、お粥や豆乳や茹で卵を各自の席に運んで食事することになる。しかしその学生は何もせずただ座っているだけである。変な学生だと思いながら眺めていると、両親らしき男女が皿に一杯おかずを載せてやって来た。これで解った。新入生である。地方から吉林大学に入学したのであろう。両親が付き添って来たのである。

日本でも、入学時に両親が付き添ってくるのは普通になった。それにしても、である。雛に餌を運ぶ親鳥よろしく、さあ食べなさいと料理を運んでくる親も親なら、いい歳をして、じっと待っている子も子である。過保護もここまで来ると何をか況やである。友人にこの話をしたら、「両親の付き添いは普通、双方の祖父母まで付き添ってくるケースもある」と苦笑いしていた。こうした過保護が次代の指導者になるのである。この国はどうなるのであろうか。

・国境地域から見た北朝鮮経済

丹東市街地、川向こうは北朝鮮

8月には遼寧省の丹東市と吉林省の国境地域に出かける機会があった。国境地域から見える北朝鮮の経済状況について若干触れておくことにしたい。

丹東市は鴨緑江を挟んで北朝鮮の新義州市と対峙する中国最大の国境都市である。総面積1万4,910k㎡、総人口は241万人（都市部人口76万人）、満族・蒙古族・朝鮮族・錫伯族等35の少数民族を擁する。わけでも満族の比重が高く、彼



らの自治県もある。戦前は安東と呼ばれ、日本人も多く住んでいたという。東を安らかにするという地名は誤解を招くということで、1965年に丹東と改名されたと聞く。

私は91年から丹東にはよく出かけている。96年には「丹東経済研究所」を設立した。中朝貿易の7割が丹東を窓口に行われているし、丹東に設置されている北朝鮮の各種機関・企業の支社や事務所の数は200に上る。鴨緑江対岸の新義州との日常的な交流も頻繁で、北朝鮮の経済状況がある程度まで窺い知ることが出来るからである。実際、鴨緑江に架かる鉄橋近くのホテルの高層階の部屋は、米国や韓国の情報機関が借り上げているといわれている。鉄道と道路が並行している鉄橋を監視していれば、中一朝間の物流が手に取るように解るからである。

毎年見ている対岸の風景だが、今年はずっとより活気が感じられる。事実、貿易統計を見ても、今年上半年の丹東の対北朝鮮貿易は、前年同期比65%増の3億9,378万ドルである。聞けば、対岸に見える新義州の港を中国企業が借り受ける契約を結んだのだという。中国企業は港を借り受けて改修し、60km離れた炭鉱で採掘される石炭を輸送する計画である。「北朝鮮の開放政策は中国以上なのだが、インフラが整備されていないからダメなんだ」とは、北朝鮮通の中国人の言である。それに気付いてか、北朝鮮側もインフラ整備を含めた投資を中国側に要請している。例えば、単に炭坑から採炭するだけでなく、採炭した石炭を運んで港湾から輸出するまで全てを中国企業に任せるもので、場合によっては

港湾の整備も含まれる。中国企業は、採炭や石炭の輸送コスト、さらには港湾の整備コストを、採炭した石炭の現物で受け取るのである。北朝鮮にとっては、金を出さずにインフラが整備できるので好都合である。

久しぶりに開発区に行ってみた。開発区は正式には「丹東辺境経済合作区」という。現在、開発区を拡大するプロジェクトが動き出している。国家プロジェクト「東北振興」の目玉である、国境沿いの東部鉄道が完成すると、港湾都市丹東は、鉄道沿線の黒竜江省・吉林省内陸地域の窓口になり得るからである。吉林省・丹東市ともに、丹東市の吉林省編入を願っているのも肯げよう。この編入問題、丹東市を抱える遼寧省は絶対反対である。しかし、遼寧省には大連・營口・金州と港湾が多い。吉林省には港湾は皆無で、出海は悲願である。丹東市の吉林省編入は、双方の発展にとってのみならず、東北全体の発展にとっても大きなプラス要因だと思うのだが・・・。

開発区の拡大は、北朝鮮の経済復興を睨んだ措置でもある。一昨年に撮られた衛星写真を示しながら、開発区の責任者は、対岸の新義州の家屋の密集度には吃驚したと告白した。98年を底に北朝鮮の経済は復興しつつあるのだが、予想以上だというのである。開発区は、北朝鮮との物流拡大を見越して、鴨緑江にもう1本連絡橋を架ける計画だという。

・肝を冷やした国境視察

国境の交易地点を、中国では「口岸」と称している。吉林省はロシア・北朝鮮と国境を接していて、国境地域には口岸が多い。ロシアとの口岸は琿春市の琿春口岸一つであるが、ロシアに狂牛病が発生したとかで閉鎖されていた。「辺民互市」といって、国境地域の中国人とロシア人が自由に取引できる地点も設けられ、中国人は3,000元まで免税措置を受けられるのだが、ここも閑散としていた。



図們から見る北朝鮮国境線

北朝鮮との口岸では、図們市の図們口岸、琿春市の沙駝子口岸・圈河口岸を、さらには中国領先端の防川も視察した。といっても、外国人の中には入れないので、この時の私は「南方からの中国人」である。日本語は喋るなど口止めされている。図們口岸では、北朝鮮の切手を売っている朝鮮族のおばさんに日本人だと気付かれそうになったが、欲しくもない切手シートを買って、広東省から来た南方人だと誤魔化した。しかし、防川では、展望台の若い警備兵に外国人だと見破られてしまった。警備兵は、北朝鮮から苦情が来るので、展望台に上ってくる中国人が北朝鮮側にカメラを向けないように監視しているのである。

吉林省琿春市の防川は中国領の最先端に位置している。中・朝の国境河川図們江は、ここからは朝・露の国境河川となり、距離にして僅か15kmを流れて日本海に注ぐ。海に面していない吉林省は、何とか防川から日本海に出たいのだが、北朝鮮が認めないので出海できないでいる。10年前は道路事情が悪くてガタガタ道を這々の体で辿り着いたものだが、いまでは道路は綺麗に舗装され、展望台まで出来ている。「注意有蛇」の立て札が立ててある。蛇が多いことだけは以前と変わっていないと、変なところで感心して、注意力散漫

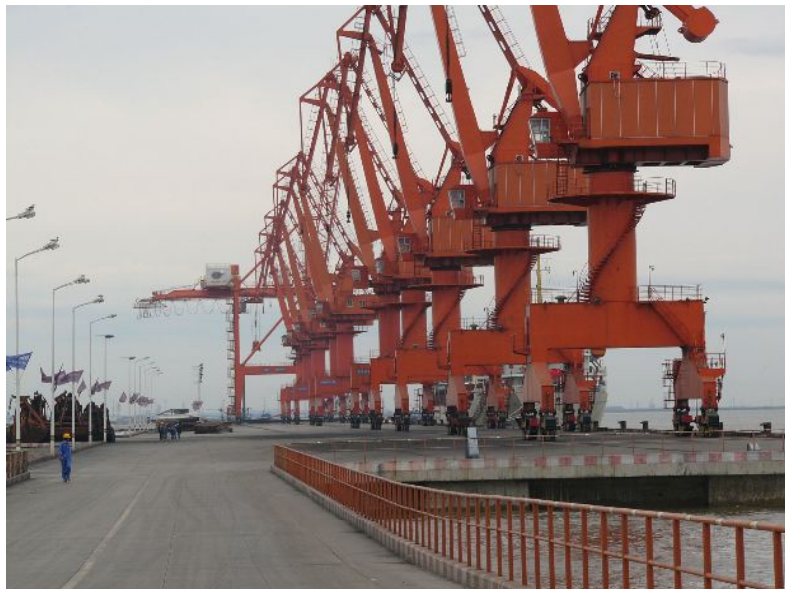
になっていたのがいけなかった。ナショナルの望遠付きのデジカメをバッグに仕舞い忘れて見咎められたというわけである。しかし、幸いにも、展望台から降ろされただけで、フィルムは没収されなかった。騒ぎが大きくならなくて、正直ホットした。

図們・沙駝子・圈河のいずれの口岸も、国境河川図們江に架けられた橋で北朝鮮と繋がっている。橋の中央に引かれた太いラインが国境線である。一般人をここまで入れてくれるのだから、国境といっても、緊張感はほとんどない。警備兵の目を盗んで、国境のラインを越えたことはいうまでもない。島国日本では絶対に体験できない快感を味わうことが出来るからである。圈河口岸は北朝鮮の元汀に繋がっている。98年には、事前の通知が届いているのかどうか不安に駆られながら、この橋を渡って元汀から羅津に入ったのだったが、圈河が道路も税関の建物も綺麗に整備されているのに対して、元汀は以前のままでのようである。しかし、98年には泥濘んでバスが立ち往生していた元汀から羅津への道路は、近く中国企業の手で全面的に改修されると聞いた。ここでも、インフラ整備は中国企業任せである。

・上海脱出と北朝鮮労働力の利用

大型クレーンが立ち並ぶ丹東港大東港区

琿春辺境経済合作区の責任者の話によると、上海近郊の紡績工場150社がコスト削減を狙って琿春進出を検討中だという。こんな辺境の地にとと思うのだが、輸送は、中国企業がロシアから借り上げているザルビノ港（琿春から鉄道も敷設され、韓国の束草までの航路もある）を利用し、将来的には北朝鮮の労働力利用も視野に入れているというのである。



北朝鮮の労働力といえば、長春で縫製工場を経営し、衣料品を名古屋のメーカーに納めている私の知人は、北朝鮮からの労働者30人を研修名目で受け入れる許可が下りたと喜んでいて、中国も研修名目で外国人労働者を受け入れるようになったのである。北朝鮮側の労働者派遣企業は、労働時間を16時間にして欲しいと言ってきたのだが、法律の規定もあって8時間労働で納得してもらった。上手く行けば、北朝鮮からの労働者を来年は60人に増やしたいとも言っていた。同工場は、「食住付きで月額600～800元」という条件で若い労働者を募っているのだが応募者は多くなく、身障者も雇っている。大学の近くのレストランの求人広告でも、条件は同じく「食住付きで月額600～800元」だから、特に安いというわけでもなさそうである。工場労働はきついと、若者に嫌われているのであろうか。やはり、北朝鮮の労働者に期待せざるを得ないようである。

10月2日付けの『日本経済新聞』は、日本の繊維商社がコスト削減を狙って、生産拠点を上海や沿海地域から安徽省や新疆ウイグル自治区等の内陸部にシフトさせようとしていると報じている。吉林省では、それが北朝鮮の労働力とも絡んで進行しているのである。10年後には、この辺境の地は、そしてまた北朝鮮はどのように変わっているのだろうか。

この項終わり

事務局からのご連絡です

お知らせ！！

九州中国クラブ定例会のご案内

日時 05年12月20日（火曜日）

18:00～21:00 予定

会場 福岡市博多区築港本町2-1

福岡サンパレス 特設会場

内容 第三回定例会議

特別講演会予定

年末忘年パーティ併催

費用 会員1名さまは無料です。

別途正式にご案内いたします。

会報に皆様の企業紹介

を掲載しませんか。

会員企業の皆様をお願いした運営アンケートを集計致しました。その結果、会報へ会員企業さんのPRページの掲載を希望する多くの声がありました。そこで次号よりPRページを設ける予定にしています。PRページに掲載を希望する会員の皆様方、掲載記事・写真等がございましたら準備をお願いします。掲載スタイルなど会員さんのご希望にそえるよう打ち合わせのうえ自由な設定が可能です。ご希望があればまず事務局にメール・電話あるいはFAXにてお知らせください。

和田夫人からお礼のことば

・・・・あまり人様の前でお話をした経験が少ないので、講演会席上で何をどう話したのか、皆様にちゃんとご挨拶をして帰ったのか、全く思い出せないほどでした。・・・・

・・・・折角、お集まりいただいた皆様方にお役に立てるようなお話が出来なくて申し訳ありません。お詫びの言葉もありません。・・・・

皆様のご好意で最後まで熱心に聴いて戴き本当にありがとうございました。会報の紙面をお借りして心からお礼申し上げます。・・・・

和田貴美子



編集後記

会報2号は西南学院大学小川教授の現地レポートに大きく紙面をとり一挙に掲載しました。またアンケートでは会報の内容充実のご意見が多数ありました。次回以降、中国で発行されている上海ウォーカーなどから新鮮情報のご紹介を考えています。

会報について引き続き会員の皆様のご意見をお待ちしています。

発行 九州中国クラブ事務局

福岡市中央区天神5-9-2-910

TEL 092-739-7505

FAX 092-739-7506

Eメールご連絡大歓迎！！

kchinaclub@w4.dion.ne.jp